

2017年度(平成30年3月期) 決算説明資料

IHI

2018年5月9日

株式会社 IHI



目次

1. 2017年度 連結決算

連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書).....	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益.....	9
特別利益.....	10
特別損失.....	11
連結貸借対照表.....	12
連結キャッシュ・フロー計算書.....	13
補足資料.....	14

2. 2018年度 連結業績見通し

通期業績見通し.....	18
報告セグメント別内訳.....	19

3. 報告セグメント別の概況

資源・エネルギー・環境.....	23
社会基盤・海洋.....	25
産業システム・汎用機械.....	27
航空・宇宙・防衛.....	29

<参考資料>	31
--------------	----

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

1. 2017年度 連結決算

1. 2017年度 連結決算 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

2017年度 売上平均レート(米ドル) 111.00円

2018年2月1日公表 業績予想

(億円)

	2016年度	2017年度		増減
受注高	13,898	15,000	15,050	50 1,151
売上高	14,863	16,000	15,903	▲ 97 1,040
営業利益	473	710	722	12 248
経常利益	220	390	214	▲ 176 ▲ 5
税金等調整前 当期純利益	180		189	9
親会社株主に帰属する 当期純利益	52	110	82	▲ 28 30

2016年度と同様に、一部の海外連結子会社の決算日を12月31日から3月31日に変更しており、当連結会計年度においては、該当する海外連結子会社の会計期間が15か月となっています。この影響により、売上高で579億円(前期252億円)、営業利益で14億円(前期27億円)がそれぞれ増加しています。

1. 2017年度 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

2018年2月1日公表 業績予想

(億円)

	受注高			受注残高		
	2016年度	2017年度	増減	2016年度	2017年度	増減
資源・エネルギー・環境	3,528	4,400 3,780	▲ 620 252	7,523	6,485	▲ 1,038
社会基盤・海洋	1,501	1,500 1,639	139	1,961	2,061	99
産業システム・汎用機械	4,205	4,700 4,740	40	1,484	1,610	126
航空・宇宙・防衛	4,515	4,400 4,638	238	5,110	5,330	219
報告セグメント計	13,750	15,000 14,799	▲ 201 1,048	16,080	15,487	▲ 593
その他	683	741	57	172	184	11
調整額	▲ 535	▲ 490	45	-	-	-
合計	13,898	15,000 15,050	50 1,151	16,253	15,671	▲ 581
海外受注高・受注残高	6,155	8,190	2,035	5,912	6,254	341
海外受注高・受注残高比率	44%	54%	10%	36%	40%	4%

1. 2017年度 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

2018年2月1日公表 業績予想

(億円)

	売上高			営業利益		
	2016年度	2017年度	増減	2016年度	2017年度	増減
資源・エネルギー・環境	4,273	4,904	631	▲106	▲148	▲41
社会基盤・海洋	1,577	1,545	▲32	▲120	139	260
産業システム・汎用機械	4,116	4,590	474	175	189	13
航空・宇宙・防衛	4,719	4,637	▲82	530	601	70
報告セグメント計	14,687	15,677	990	478	781	303
その他	751	735	▲16	25	27	1
調整額	▲575	▲509	65	▲30	▲86	▲56
合計	14,863	15,903	1,040	473	722	248

海外売上高	7,574	8,080	506
海外売上高比率	51%	51%	0%

一部の海外連結子会社の決算日を変更したことに伴うセグメント別の影響については、決算短信のセグメント情報を参照ください。

1. 2017年度 連結決算 報告セグメント別内訳(営業利益の前期比増減要因)

(億円)

	売上高の増減	工事採算の変動	為替の変動	販管費の変動	報告期間統一の影響	合計
資源・エネルギー・環境	42	▲ 110	1	32	▲ 7	▲ 41
社会基盤・海洋		259	5	▲ 4		260
産業システム・汎用機械	24			▲ 7	▲ 4	13
航空・宇宙・防衛	▲ 58	131	17	▲ 19		70
報告セグメント計	8	280	23	2	▲ 11	303
その他	▲ 1	3		2	▲ 2	1
調整額		▲ 30		▲ 26		▲ 56
合計	7	253	23	▲ 22	▲ 13	248

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

北米 プロセスプラント案件の採算悪化(第4四半期)について

現地での建設・据付工事が本格化する中、第4四半期において、有識者で構成したチームをIHI本社より派遣し、以下の4つの視点で工程と見積コストのモニタリングを行ない、工事原価見通しを再精査しました。

- ① サブコンとの最新の契約交渉状況が適切に反映されているか。
- ② 工程遅延のキャッチアップのためのコストが適切に見積もられているか。
- ③ 施工計画上の今後必要となる工事が網羅的に抽出されているか。
- ④ お客様支給品の納入遅れの影響が適切に織り込まれているか。

このモニタリングの結果を踏まえて、今後発生することが見込まれる追加コストを決算に織り込みました。

事業会社であるIHI E&Cでは、新規の大型受注は手控え、本プロジェクトへリソースを集中しています。

本年夏に予定されているNo.1トレインの引渡へ向けて、外注管理も含めたきめ細かなプロジェクトの進捗管理を引き続き実施していきます。

1. 2017年度 連結決算 営業外損益

(億円)

	2016年度	2017年度	増減	備考
金融収支	▲ 5	▲ 5	0	
持分法による投資損益	▲ 35	▲ 330	▲ 295	2017年度: ジャパン マリンユナイテッド(株) ▲320※
為替差損益	▲ 67	▲ 38	28	
その他	▲ 145	▲ 134	11	2017年度: 環境保全対策に係る未払費用の取崩益 +10 民間航空エンジン契約調整負担金 ▲64 契約納期遅延に係る費用 ▲44
営業外損益	▲ 253	▲ 508	▲ 254	

(※) 当社の関連会社であるジャパン マリンユナイテッド(株)で、3QでのLNG船の採算悪化に加えて、4Qにおいて為替相場変動による外貨建て工事の採算悪化や繰延税金資産の取崩しなどにより悪化幅が拡大しました。

期末日レートの変動(米ドル) 2016年度 ▲0.49円 (期首112.68円→期末112.19円)
2017年度 ▲5.95円 (期首112.19円→期末106.24円)

1. 2017年度 連結決算 特別利益

(億円)

	2016年度	2017年度	増 減	備 考
事業譲渡益	—	15	15	船用機械事業, 防災事業
固定資産売却益	235	—	▲ 235	豊洲センタービルアネックス底地の売却等
退職給付信託設定益	34	—	▲ 34	
関係会社損失引当金取崩益	16	—	▲ 16	
負ののれん発生益	10	—	▲ 10	シールド事業再編関連
関係会社株式譲渡に係る利益	7	—	▲ 7	建機事業再編関連
特 別 利 益	305	15	▲ 289	

1. 2017年度 連結決算 特別損失

(億円)

	2016年度	2017年度	増 減	備 考
商業運転中のボイラ設備に係る 和解関連費用	—	▲ 29	▲ 29	・商業運転中のボイラ設備損傷事故に対する一定 の金額負担 ・弁護士費用等
減 損 損 失	▲ 34	▲ 10	23	
F-LNG・海洋構造物事業 に係わる事業構造改革費用	▲ 99	—	99	・愛知工場(F-LNG生産設備)の減損損失 ・一部設備の解体撤去費用
債権譲渡損	▲ 98	—	98	保証債務履行に伴う㈱UNIGENへの求償権の譲 渡損
納入済みボイラ設備に係る 和解関連費用	▲ 69	—	69	・納入済みボイラ設備損傷事故に対する一定の金 額負担 ・弁護士費用等
工事契約変更に係る補償金	▲ 22	—	22	海洋構造物事業案件での契約変更に伴う補償
豊洲地下道解体撤去費	▲ 20	—	20	
特 別 損 失	▲ 344	▲ 40	304	

1. 2017年度 連結決算 連結貸借対照表

(億円)

	2016年度末	2017年度末	増減
資産合計	16,928	16,336	▲ 591
(うち 売上債権)	(4,030)	(4,003)	(▲ 27)
(うち 棚卸資産)	(4,172)	(4,285)	(112)
(うち 投資有価証券)	(1,346)	(992)	(▲ 353)
負債合計	13,552	12,834	▲ 717
(うち 仕入債務)	(2,859)	(3,049)	(189)
(うち 前受金)	(2,089)	(1,778)	(▲ 310)
(うち 有利子負債残高)	(3,719)	(3,222)	(▲ 496)
純資産合計	3,376	3,502	125
株主資本	3,099	3,132	32
その他の包括利益累計額	81	113	31
非支配株主持分等	194	256	61
負債・純資産合計	16,928	16,336	▲ 591
D/Eレシオ (※)	1.10倍	0.92倍	▲ 0.18倍
自己資本比率	18.8%	19.9%	1.1%
ROIC (※)	5.0%	7.7%	2.7%

有利子負債残高には、リース債務残高(2016年度末:203億円, 2017年度末:182億円)を含んでいます。

(※) D/Eレシオ=有利子負債/純資産, ROIC=(営業利益+受取利息・配当金)税引後/(自己資本+有利子負債)

1. 2017年度 連結決算 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2016年度	2017年度	増 減
営業キャッシュ・フロー	653	990	336
投資キャッシュ・フロー	▲ 289	▲ 479	▲ 190
フリー・キャッシュ・フロー	364	510	146
財務キャッシュ・フロー	▲ 219	▲ 573	▲ 353

(1) 研究開発費・設備投資額・減価償却費

(億円)

	2016年度	2017年度	2018年度(見通し)
研究開発費	355	386	390
設備投資額	527	592	770
減価償却費	466	448	460

設備投資額, 減価償却費は, 有形固定資産に係る金額を示しています。

(2) 海外売上高

(億円)

	2016年度	2017年度
ア ジ ア	1,721	1,587
中 国	882	1,115
北 米	3,202	3,513
中 南 米	264	228
欧 州	1,161	1,326
そ の 他	341	309
合 計	7,574	8,080
海外売上高比率	51%	51%

(3) 報告セグメント別内訳 資産残高

(億円)

	資 産 残 高		
	2016年度末	2017年度末	増 減
資源・エネルギー・環境	4,061	3,386	▲ 675
社会基盤・海洋	2,413	2,316	▲ 96
産業システム・汎用機械	3,189	3,439	250
航空・宇宙・防衛	4,936	5,186	250
報告セグメント計	14,601	14,329	▲ 271
その他	1,077	811	▲ 265
調整額	1,249	1,195	▲ 54
合計	16,928	16,336	▲ 591

2. 2018年度 連結業績見通し

2. 2018年度 連結業績見通し 通期業績見通し

前提為替レート 米ドル 105円
 ユーロ 130円

(億円)

	2017年度実績 A	2018年度見通し B	増減 B-A
受注高	15,050	15,000	▲ 50
売上高	15,903	15,000	▲ 903
営業利益	722	850	128
経常利益	214	650	436
親会社株主に帰属する 当期純利益	82	320	238

(参考) 為替感応度(為替相場の1円の変動により, 営業利益に与える影響額)

米ドル 10億円 ユーロ 0億円

2. 2018年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(受注高通期見通し)

(億円)

	2017年度 実績	2018年度 見通し	増 減
資源・エネルギー・環境	3,780	3,800	20
社会基盤・海洋	1,639	1,400	▲ 239
産業システム・汎用機械	4,740	4,700	▲ 40
航空・宇宙・防衛	4,638	4,900	262
報告セグメント計	14,799	14,800	1
そ の 他	741	700	▲ 41
調 整 額	▲ 490	▲ 500	▲ 10
合 計	15,050	15,000	▲ 50

2. 2018年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益通期見通し)

(億円)

	2017年度 実績		2018年度 見通し		増 減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
資源・エネルギー・環境	4,904	▲ 148	3,900	200	▲ 1,004	348
社会基盤・海洋	1,545	139	1,500	120	▲ 45	▲ 19
産業システム・汎用機械	4,590	189	4,400	220	▲ 190	31
航空・宇宙・防衛	4,637	601	5,000	440	363	▲ 161
報告セグメント計	15,677	781	14,800	980	▲ 877	199
そ の 他	735	27	700	30	▲ 35	3
調 整 額	▲ 509	▲ 86	▲ 500	▲ 160	9	▲ 74
合 計	15,903	722	15,000	850	▲ 903	128

2. 2018年度 連結業績見通し

報告セグメント別内訳(実績からの営業利益の増減要因)

IHI

(億円)

	売上高の増減	工事採算の変動	為替の変動	販管費の変動	報告期間統一の影響	合計
資源・エネルギー・環境	▲ 20	327		40	1	348
社会基盤・海洋	▲ 19					▲ 19
産業システム・汎用機械	10	37			▲ 16	31
航空・宇宙・防衛	▲ 240	150	▲ 70	▲ 1		▲ 161
報告セグメント計	▲ 269	514	▲ 70	39	▲ 15	199
その他				2	1	3
調整額		36 (※)▲ 110				▲ 74
合計	▲ 269	440	▲ 70	41	▲ 14	128

(※)前期と同様に、業績変動リスクに備えたバッファとして▲110億円を計上しています。

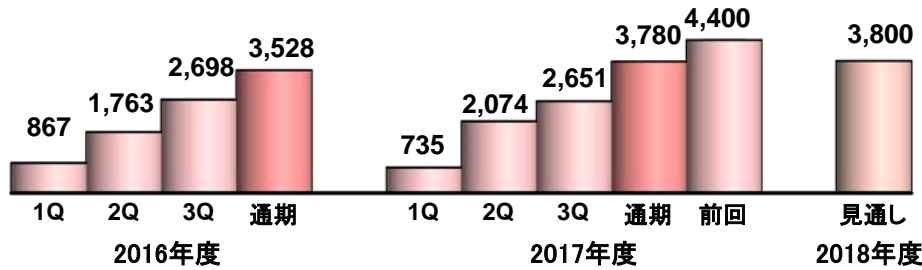
3. 報告セグメント別の概況

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

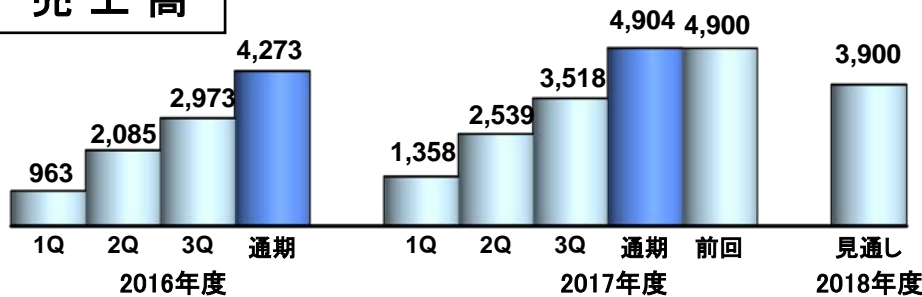
(億円/各期の金額は累計)
 前回: 2018年2月1日公表の業績予想数値

主要事業: ボイラ, 原動機プラント, 陸船用原動機, 船用大型原動機, プロセスプラント,
 原子力, 環境対応システム, 医薬プラント

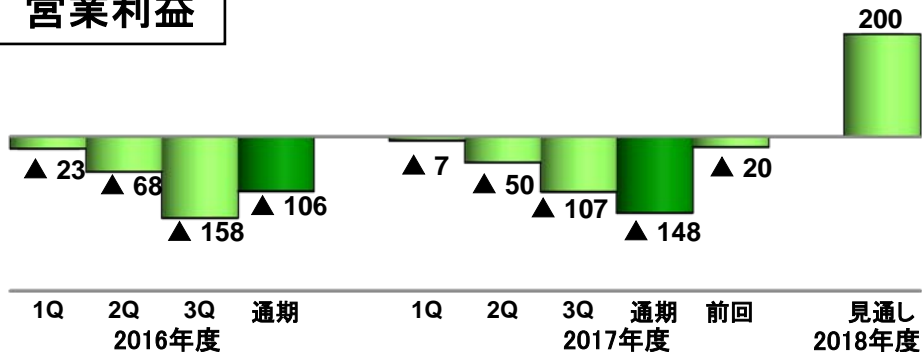
受注高



売上高



営業利益



<対前期 増減内訳>

【受注高】

原子力やプロセスプラントで減少したものの、ボイラでバン
 グラデシュ向け案件を受注したことなどにより、増加しまし
 た。

【売上高】

報告期間統一の影響のほか、プロセスプラントにおいて大
 型プロジェクトが進捗したことや、ボイラで増収となりました。

【営業利益】

ボイラでの採算悪化の解消や増収の効果はあったものの、
 プロセスプラントの採算悪化により、赤字幅が拡大しました。

<対前回見通し 増減内訳>

受注高は、プロセスプラントなどで減少しました。

売上高は、ほぼ横ばいとなりました。

営業利益は、プロセスプラントの採算悪化により、赤字幅
 が拡大しました。

<2018年度見通し>

売上高は、プロセスプラントで当期に大型プロジェクトが進
 捗した反動などにより、減収となる見込みです。

営業利益は、プロセスプラントで当期の赤字が解消するこ
 となどにより、黒字となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円)

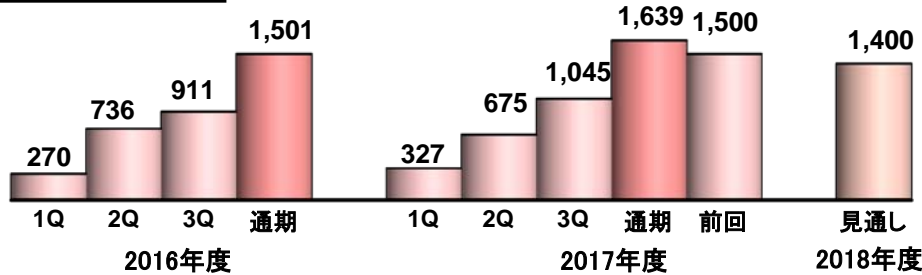
	受注高			売上高								
	'16年度 通期	'17年度 通期	'18年度 通期 (見通し)	'16年度			通期	'17年度			通期	'18年度 通期 (見通し)
				1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計		
ボ イ ラ	583	1,304	1,220	245	609	861	1,120	254	700	998	1,481	1,200
原 動 機 プ ラ ン ト	190	353	300	58	104	140	189	64	110	167	257	250
陸 船 用 原 動 機	611	584	620	133	264	388	583	145	285	409	586	600
プ ロ セ ス プ ラ ン ト	730	440	550	215	486	629	943	691	997	1,263	1,491	700
原 子 力	556	219	280	22	69	127	301	52	103	169	338	400

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円/各期の金額は累計)
前回: 2018年2月1日公表の業績予想数値

主要事業: 橋梁・水門, シールドシステム, 交通システム, コンクリート建材,
都市開発, F-LNG・海洋構造物

受注高

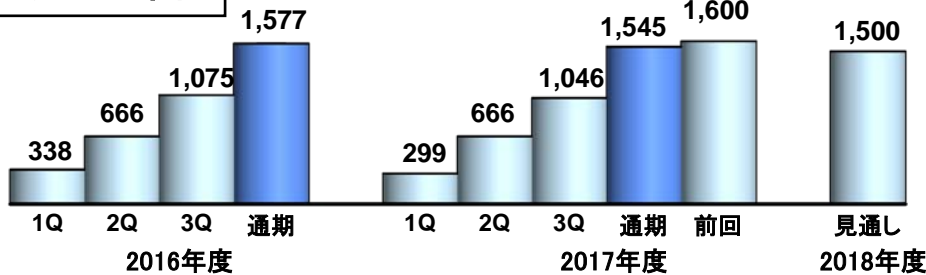


<対前期 増減内訳>

【受注高】

シールドシステムで減少したものの、橋梁・水門でルーマニアブレイラ橋やムンバイ湾横断道路橋を受注したことにより、増加しました。

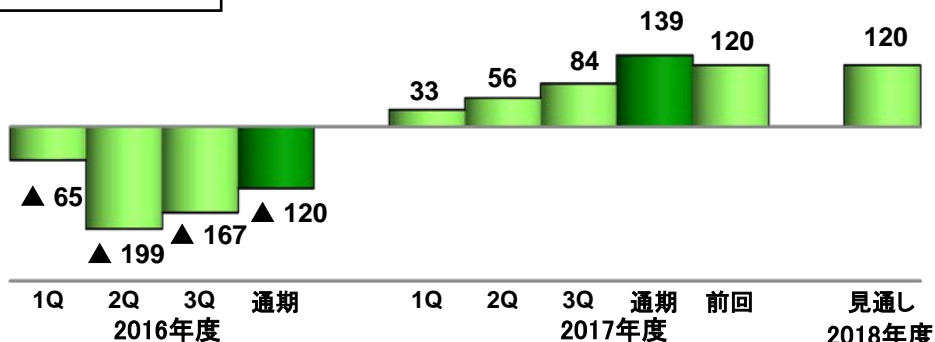
売上高



【売上高】

シールドシステムで統合の効果や工事進捗に伴う増収があったものの、F-LNG・海洋構造物や交通システムで減収となりました。

営業利益



【営業利益】

前期に計上したF-LNG・海洋構造物の赤字が解消したことなどにより、営業黒字となりました。

<対前回見通し 増減内訳>

営業利益は、シールドシステムなど複数の事業での採算改善により、改善しました。

<2018年度見通し>

受注高は、橋梁・水門で減少する見込みです。
売上高・営業利益については、主にシールドシステムの減収の影響などにより、減収・減益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円)

	受注高			売上高								
	'16年度 通期	'17年度 通期	'18年度 通期 (見通し)	'16年度			通期	'17年度			通期	'18年度 通期 (見通し)
				1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計		
橋梁・水門	710	1,031	700	150	306	449	672	128	267	427	673	800
F-LNG	▲ 17	▲ 7	-	80	107	146	184	24	91	103	112	15
都市開発	151	162	170	34	71	106	142	42	89	125	169	170

「都市開発」の豊洲地区関連情報は、P37、P38の<参考資料>をご覧ください。

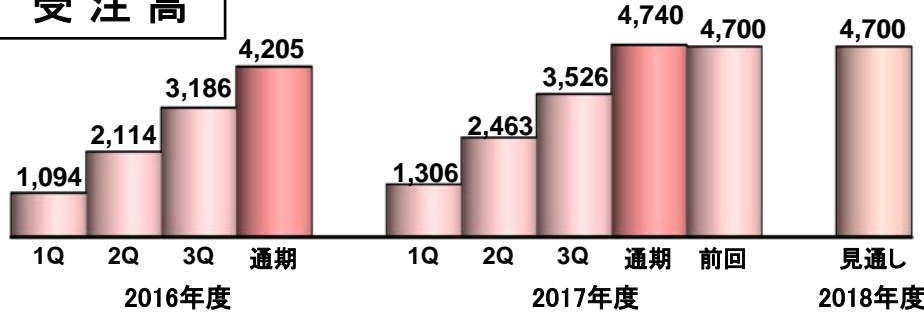
3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円/各期の金額は累計)

前回:2018年2月1日公表の業績予想数値

主要事業:物流・産業システム, 運搬機械, パーキング, 熱・表面処理, 車両過給機, 回転機械, 農機・小型原動機

受注高



<対前期 増減内訳>

【受注高】

車両過給機や熱・表面処理で増加しました。

【売上高】

報告期間統一の影響に加えて、車両過給機の中国向け販売台数が増加したことなどにより、増収となりました。

<車両過給機の販売台数> (万台)

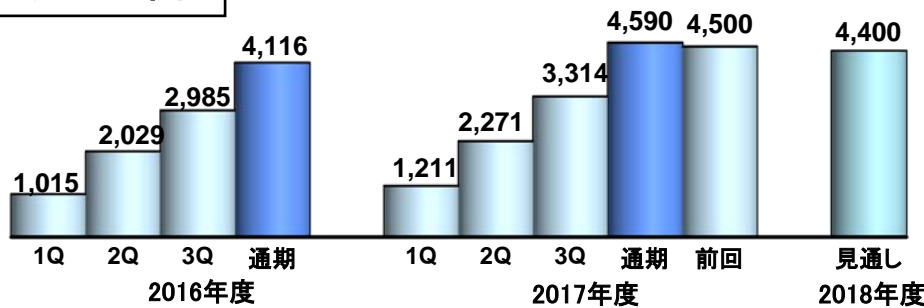
販売年度	通期
2016年度	610
2017年度	790
2018年度(見通し)	720

※2016年度・2017年度の値には、報告期間統一の影響を含んでいます。

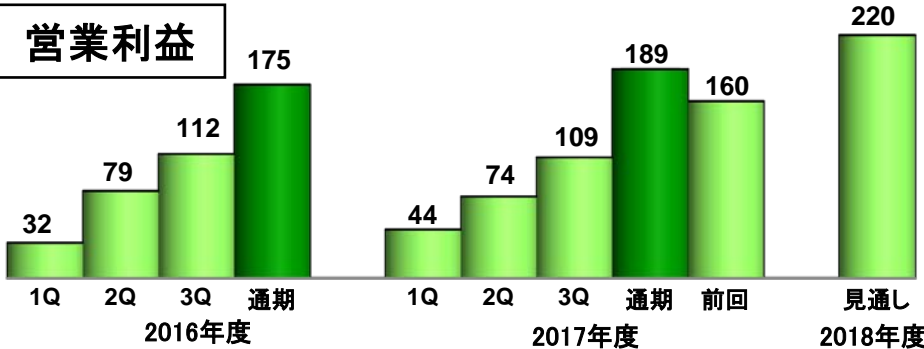
【営業利益】

上記の増収の影響により、増益となりました。

売上高



営業利益



<対前回見通し 増減内訳>

受注高・売上高については、車両過給機の中国向け販売台数が増加しました。

営業利益は、上記の増収の影響などにより、増益となりました。

<2018年度見通し>

売上高は、当期の報告期間統一の反動により、減収となる見込みです。

営業利益は、上記の影響はあるものの、回転機械での採算改善などにより、増益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円)

	受注高			売上高								
	'16年度	'17年度	'18年度	'16年度			通期	'17年度			'18年度 通期 (見通し)	
	通期	通期	通期 (見通し)	1Q	2Q累計	3Q累計		1Q	2Q累計	3Q累計		通期
運搬機械	319	252	390	54	116	165	234	32	105	178	283	250
パーキング	416	513	470	75	184	296	428	78	171	289	428	460
熱・表面処理	352	503	420	78	156	232	323	132	230	326	438	400
車両過給機	1,746	2,201	1,950	474	868	1,293	1,746	691	1,179	1,664	2,205	1,950
回転機械	480	481	540	103	217	337	482	82	188	298	435	500

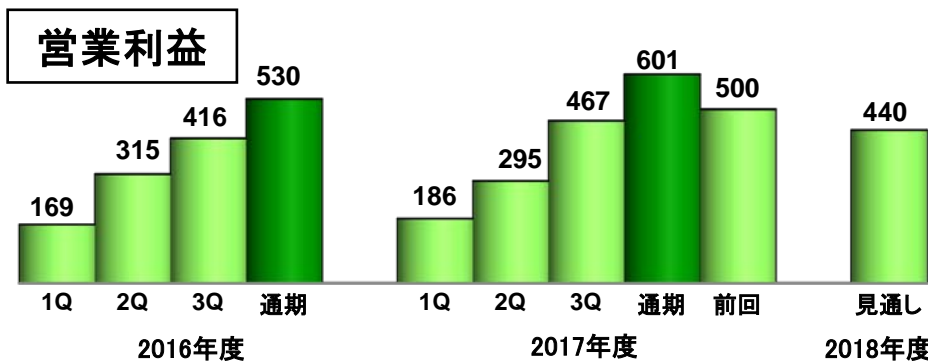
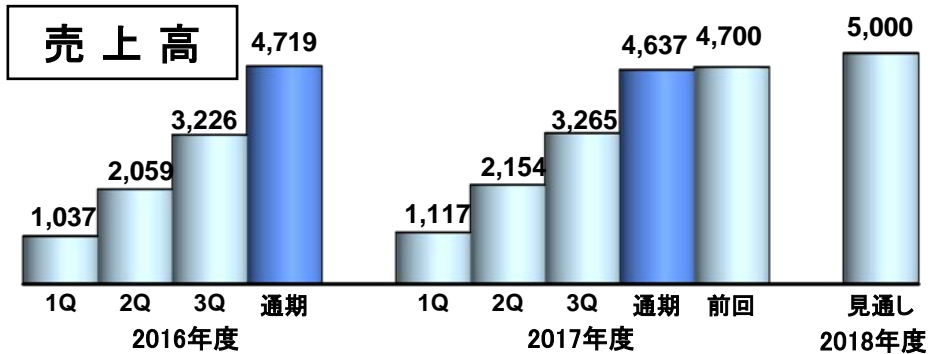
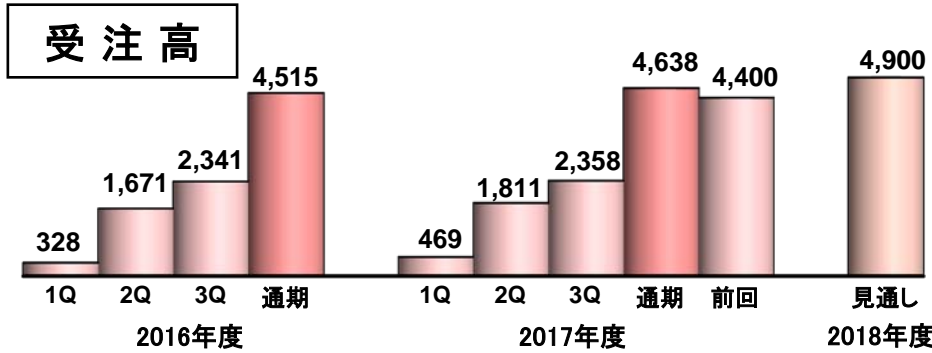
「車両過給機」の詳細は、P36の<参考資料>をご覧ください。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円/各期の金額は累計)

前回: 2018年2月1日公表の業績予想数値

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム



<対前期 増減内訳>

【受注高】
防衛機器システムや、前期に一括受注があった防衛省向けエンジンで減少したものの、民間向け航空エンジンで増加しました。

【売上高】
民間向け航空エンジンで減収となりました。

<民間向け航空エンジンの販売台数> (台)

販売年度	通期
2016年度	1,282
2017年度	1,206
2018年度(見通し)	1,700

【営業利益】
新型のPW1100Gエンジンの販売増加による影響や販管費の増加はあったものの、民間向け航空エンジンのスペアパーツの増加や為替の好転などにより、増益となりました。

<対前回見通し 増減内訳>

受注高は、民間向け航空エンジンなどで増加しました。
売上高は、PW1100Gエンジンの販売が減少しました。
営業利益は、上記の減収の影響に加えて、民間向け航空エンジンのスペアパーツの増加などにより、増益となりました。

<2018年度見通し>

受注高・売上高については、PW1100Gエンジンなどの増加を見込んでいます。
営業利益は、民間向け航空エンジンのスペアパーツの採算改善はあるものの、上記の増収や為替の影響により、減益となる見込みです。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円)

	受注高			売上高								
	'16年度	'17年度	'18年度	'16年度				'17年度				'18年度
	通期	通期	通期 (見通し)	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	通期 (見通し)
民間向け 航空エンジン	2,630	3,191	3,400	698	1,352	2,083	2,915	697	1,413	2,166	2,810	3,250

「民間向け航空エンジン」の詳細は、P35の<参考資料>をご覧ください。

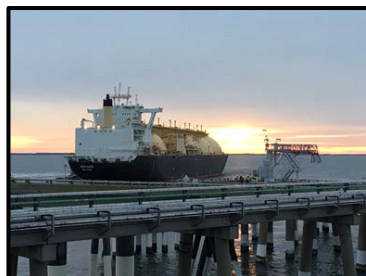
< 参考資料 >

- ・海外大型案件の進捗状況
- ・当第4四半期のトピックス
- ・航空エンジン
- ・車両過給機
- ・都市開発

コーブポイント天然ガス液化設備



2018年3月現在



試運転用LNG第1船 出航

<進捗状況>

2018年4月末現在で、試運転用LNG第1船に船積み。LNG生産量の最大運転確認。プロジェクト完了。お客さま商業運転開始宣言。

<主要工程>

- 2013年4月: 契約締結
- 2014年9月: FERC (米国連邦エネルギー規制委員会)の建設許可承認(仮設工事着工承認)
- 2015年3月: 起工式挙行
- 2017年3月: DCS(プラント制御装置)運転開始
- 2017年4~11月: メカニカル・コンプリーション
- 2018年4月: 商業運転開始

<プロジェクト概要>

- ・契約内容: コーブポイント天然ガス液化設備のEPC契約
- ・建設地: 米国メリーランド州, ラスビー, チェサピーク・ベイ
- ・担当範囲: 年産約525万トンの液化設備の設計, 建設, 試運転及び運転開始

ジマイーストパワー石炭火力発電所



完成予想図



2018年3月末現在

<進捗状況>

2018年3月末現在, #1ボイラ耐圧部・電気集塵機, #2ボイラ鉄骨・耐圧部を据付中。4月末, #1ボイラ水圧試験実施。ボイラ部分の進捗は設計:約90%, 調達:約90%, 据付:約48%, プロジェクト全体:約79%。

<主要工程>

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 2014年 8月: 契約締結 | 2018年10月: 火入れ(#1) |
| 2017年 1月: 立柱(#1) | 2019年 4月: 火入れ(#2) |
| 2017年 7月: 立柱(#2) | 2019年 6月: 商業運転開始(#1) |
| 2018年 4月: 水圧試験(#1) | 2019年12月: 商業運転開始(#2) |
| 2018年11月: 水圧試験(#2) | |

<プロジェクト概要>

- ・契約内容: IPP事業者のJimah East Power社向け石炭焚き発電所のフルターンキー契約
- ・建設地: マレーシア, ネグリスンビラン州ジマ地区
- ・担当範囲: 超々臨界圧石炭火力発電所ボイラ(1000MW×2基)の設計・調達・建設及び試運転

IHIグループ初 ボイラ設備の長期保守契約を締結

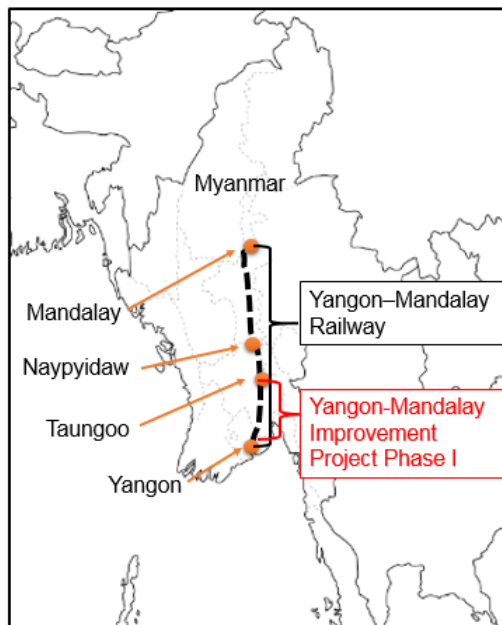
IHIは、グループ会社でボイラのメンテナンス事業を展開するIHI POWER SYSTEM MALAYSIA SDN. BHD.と協働で、モロッコの独立系発電事業者最大手であるTAQA Morocco社との間で、大型石炭火力発電ボイラの8年間にわたる長期保守契約を締結しました。

本契約の対象は、同社が運営し、モロッコ全体の発電能力の2分の1を担うジョルフラスファール発電所内の大型石炭火力発電ボイラ(出力350MW×2基)で、ボイラ設備に関する長期保守契約はIHIグループとして初めてのこととなります。

IHIグループは引き続き、アフリカ市場を含めたグローバル市場に向けて、高効率・高品質かつ環境性能にも優れた発電機器・システムの提供に加え、メンテナンスサービスをはじめとするライフサイクルビジネスを展開することを通じて、環境負荷の低減と電力の安定供給の両立に貢献していきます。



<ジョルフラスファール発電所>



<路線図>

ミャンマーで電気式気動車を受注

IHIのグループ会社である新潟トランス株式会社と丸紅株式会社は、ミャンマー国鉄より、ヤンゴン・マンダレー幹線鉄道向け電気式気動車24両を受注し、2月9日に契約を締結しました。

本案件は、日本政府の円借款450億円の供与が決定している事業の1つであり、かつ同事業における日本製品の輸出第一号となる案件です。

本案件で納入する気動車は、最大の商業都市ヤンゴンから首都ネピドーを通り第二の商業都市マンダレーへ向かう幹線鉄道のうち、中間地点であるタンゲーまでの約267kmを走り、計画ではヤンゴンからタンゲーまで現在約7時間要しているところを、約3時間20分に大幅短縮することを可能にします。

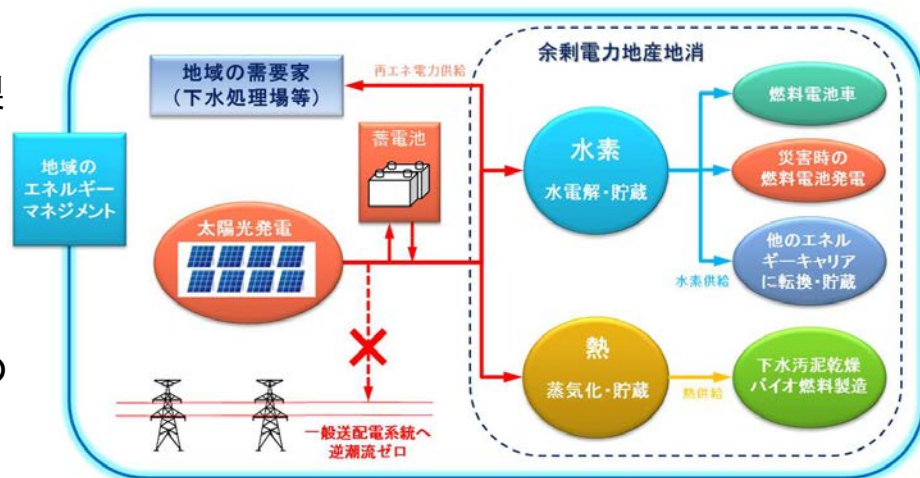
IHIグループは、今後もミャンマーを含めたアジア地域での受注活動を推進し、交通インフラ整備を通じて各国の経済発展に貢献していきます。

福島県相馬市において、地産地消型スマートコミュニティ事業を開始

IHIグループは、福島県相馬市の協力の下、相馬市においてスマートコミュニティ事業を開始しました。

本事業の特長は、太陽光発電量の変化に応じて、水電解水素製造装置負荷、蓄電池の充放電量などを制御する地産地消型エネルギーマネジメントシステムを導入することで、太陽光発電量全量を地域で消費することが可能となります。また、製造・貯蔵した水素を利用したCO₂フリーの循環型地域社会創りを実践していきます。

IHIグループは、本事業により再生可能エネルギーの地産地消の実現と地域主導の新たな自律事業モデルを創出し、被災地域の復興から地域経済の活力再生に向けた新しいまちづくりの一助となることを目指して、事業構築の推進に取り組んでいきます。



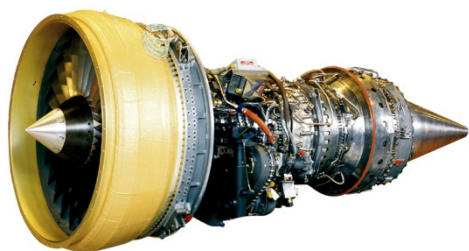
<CO₂フリーのスマートコミュニティ事業モデル>

「CF34」向けモジュールの累計出荷台数5,000台達成

IHIは、70～110席クラスのリージョナルジェットに搭載されている民間航空エンジン「CF34」のモジュール累計出荷台数5,000台を達成しました。

「CF34」は、GE社(アメリカ)が中心となって開発、設計、製造を行なっている国際共同開発事業で、Bombardier社(カナダ)、Embraer社(ブラジル)、Comac社(中国)の主要なリージョナルジェットに独占搭載されており、全世界で150社以上の航空会社に採用されているベストセラーエンジンとなっています。

IHIは、この国際共同開発事業に参画し、低圧タービンモジュールなどの主要部位を担当しています。また、エンジン整備や運航中のエンジン性能をモニタリングすることによって運航計画の最適化を支援するサービスを手掛けており、納入から運用、整備までエンジンのライフサイクル全般にわたるサービスを提供しています。今後も様々な民間航空エンジンを提供することを通じて、世界中の航空機の安心・安全・快適な運航を支えていきます。



(CF34エンジン(提供:GE社))

(1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績													見通し
	'11	'12	'13	'14	'15	'16年度				'17年度				'18年度
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	通期
売上高	1,436	1,698	2,260	2,670	2,991	698	1,352	2,083	2,915	697	1,413	2,166	2,810	3,250

(2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

(台)

	実績(累計)												主要搭載機
	'06	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	
V2500	3,154	3,474	3,828	4,168	4,551	4,980	5,468	5,969	6,469	6,896	7,236	7,508	エアバス A319/320/321
GE90	579	742	896	1,071	1,223	1,399	1,589	1,806	2,039	2,257	2,457	2,617	ボーイング B777
CF34	1,374	1,802	2,274	2,604	2,919	3,242	3,548	3,820	4,156	4,471	4,821	5,085	リージョナルジェット (70~110席級)
GEnx						118	259	468	751	1,035	1,295	1,542	ボーイング B787/B747-8
PW1100G										16	148	398	エアバス A320Neo
Passport20												13	ボンバルディア社 Global7000/8000
合計	5,107	6,018	6,998	7,843	8,693	9,739	10,864	12,063	13,415	14,675	15,957	17,163	

(注) 販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なります。

<地域別連結売上高推移>

(億円)

	実績													見通し
	'11	'12	'13	'14	'15	'16年度				'17年度				'18年度 通期
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	
日 本	331	339	353	375	346	85	180	274	389	101	196	296	398	380
ア ジ ア	169	248	298	275	216	66	96	127	158	28	57	87	117	110
中 国	143	181	234	243	249	118	205	343	485	215	383	533	719	690
北 米	11	13	16	18	24	13	19	25	33	7	19	49	84	120
中 南 米	0	0	0	7	34	29	43	50	61	11	28	51	74	90
欧 州	437	432	602	756	743	160	322	471	617	327	492	647	811	560
そ の 他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	1,094	1,216	1,507	1,677	1,616	474	868	1,293	1,746	691	1,179	1,664	2,205	1,950

(1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績													見通し
	'11	'12	'13	'14	'15	'16年度				'17年度				'18年度 通期
						1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	
賃貸収入	95	92	91	93	101	23	46	70	93	23	46	69	92	93

(2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
2017年度	92	38	33	20

(3) 豊洲地区 賃貸用不動産の期末時価評価額等

(億円)

	連結貸借対照表計上額			期末時価	期末時価 －期末残高
	期首残高	期中増減額	期末残高		
2017年度	599	▲ 37	561	1,777	1,215

(注) 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額です。
期末時価は、社外の不動産鑑定士による不動産調査報告書に基づいて算定した金額です。

豊洲1~3丁目地区 開発マップ

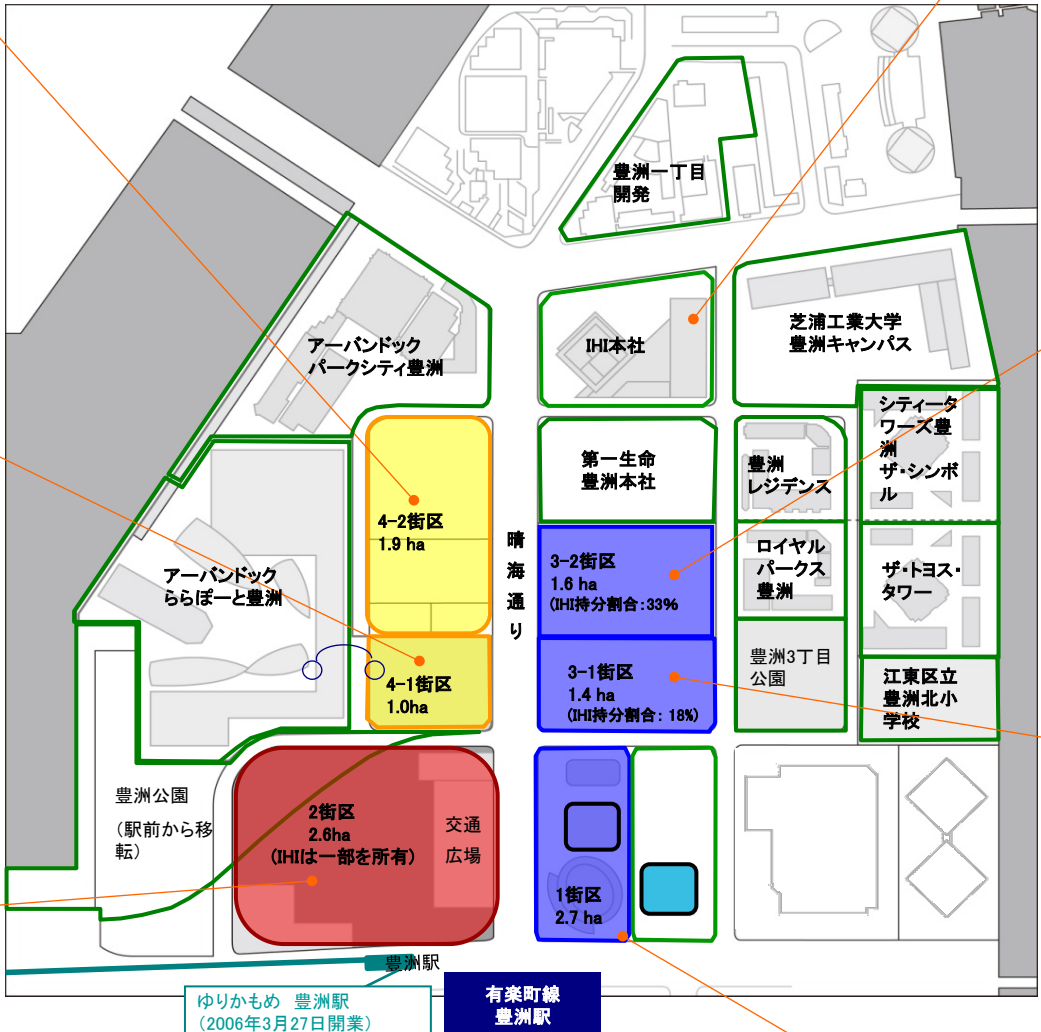
幼稚園、保育園、カフェ、結婚式場
敷地面積：19,492㎡
2010年3月～2011年2月竣工



アーバンドック ららぽーと豊洲ANNEX (三井不動産)
地上5F, 高さ約25m, 延床面積：24,721㎡
2006年10月開業




複合ビルAC棟 (IHI, 三井不動産)
地上36F, 高さ178m, 延床面積約185,000㎡
2020年4月竣工予定


豊洲IHIビル
地上25F, 高さ：約125m, 延床面積：97,617㎡
2006年2月竣工



豊洲フォレシア (IHI, 三菱地所(SPC))
地上16F, 高さ：約75m, 延床面積：101,503㎡
2014年7月竣工



豊洲フロント (IHI, 三菱地所(SPC), 三菱UFJ信託銀行)
地上15F, 高さ：約75m, 延床面積：106,861㎡
2010年8月竣工



豊洲センタービル
地上37F, 高さ：約165m, 延床面積：100,069㎡
1992年10月竣工

豊洲センタービルアネックス
地上33F, 高さ：約150m, 延床面積：105,448㎡
2006年8月竣工

シビックセンター棟：2015年9月開業
消防署棟：2016年6月竣工

- 建物賃貸
- 土地賃貸
- 建物賃貸(借地)
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

IHI所有地	約5ha
--------	------

※1 都市再開発法で定める手法の一つ

IHI

Realize your dreams

ご注意

業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。